

日本の文化に接して（異文化言い分EVEN）

著者	チョウ ソウ フライン
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	176
ページ	52-52
発行年	2010-05
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00004514



日本の文化に接して

チョウ・ソウ・フライン

日本はわたしの好きな国だ。何千年にわたって育まれた豊かな文化・伝統を大切に失わずに持っている。今回で三回目の滞在だが、日本の文化と人々にはなお目を見張るものがある。日本文化を学ぼうとすれば場所を選ぶ必要はない。各地では四季ごとに世代世代に受け継がれていくその地方独特の行事や祭事がある。年末には新たな年にそなえ、門松、しめ縄、鏡餅を飾り、収穫の神、先祖の霊をお迎えする準備をする。興味深くすばらしい文化だ。

めまぐるしく変化する今日の社会で、外国の言葉を学ぶ機会が増えた多くの人がその価値を認めるようになった。日本の国際的役割が増すにつれて日本語習得の有用性も高まった。日本語を学ぶのは実に楽し

いし筆でお習字を習うのもおもしろい。基本的な言葉ややさしい文字ならば書けるようになった。書道のセットは家に持って帰り、家族や友人とお習字を楽しもうと思っている。

日本語はいつの世にも日本文化において大きな役割を果たしてきた。

日本に来たら一度は茶の湯を学んだ方がよい。日本の美的感覚の典型がそこに理想的な形で現れているからだ。お茶を習うと日本人の習慣やおもてなしの心がわかる。また昔の生活の様式も偲ばれるのだ。

滞在中は、日本人のお宅に泊まるという貴重な体験をした。ホームステイは日本の一番の経験になった。迎えてくれた家族の人たちは最高であり、かれらのもてなしは感動的でもあり実家にいるような気分にはさせられたものだ。かれらと一緒にいる時間は本当に楽しかった。ホームステイで日本の文化の多くを教わった。おかげで日本語を話す自信もついたし、聞き取りもなれてきた。自分の家族とは別に家族ができたのだ。というわけで日本には三つの家族がある。ひとつは山梨県塩山市（一九九九年）、二つめは北海道帯広市（二〇〇〇年）そして今回の千葉県八千代市だ。この場をお借りして皆様にお礼申しあげたい。

日本の文化は旅行者や滞在者にとり大きな魅力である。余暇には多くの場所を訪れた。皇居、東京タワー、六本木、横浜、富士山、北海道、新潟、鎌倉、秋葉原、新宿、浅草、などなど。旅するときは一入なので

見知らぬ土地で迷ってあわてたりするとまわりの日本人の人にも尋ねた。英語がうまく話せない人と日本語が話せない人同士が会話するのはまったくおもしろいものだ。そんなときでも身振り手振りで意思が通うし理解し合える。英語がうまく話せなくてもなんとか説明しようと努め、いちはやく助けてくれようとする。こういう親切には頭がさがる。

日本人は伝統を重んずる。会うと挨拶の言葉を述べ、そして互いに頭をさげる。これは互いの尊敬を表す礼儀正しい仕草だ。日本滞在中、私は日本の文化と礼儀にならうようにした。形にとどまらず、ころころ日本人になった気がした。日本の文化はすばらしいと思う。数多くある伝統的祭事で、日本の太鼓をたたく祭りが好きだ。感情が高ぶり元気になってくる。滞在中は日本の歌も覚えた。歌を歌うのは日本語をたたく発音するためのよい機会である。

現在の日本は西洋の文化に染まってしまったと嘆く人が多い。たしかに西洋の文化が大きな影響をもたらした日本を変えたのは事実だ。服装は洋風であり、普段着ものを着ることはなくなった。しかし、私は日本の文化や伝統はよく守られていると見る。若者は次代を担う主役であり、自分たちの文化のすばらしさを自覚すべきだ。日本人は誠実で忠実で勤勉な国民だ。その日本を私は愛している。

Mr. Kyaw Soe Hlaing／アジア経済研究所開発スクール第19期海外研修生

出身地：ミャンマー

Visiting Research Member

Myanmar Institute of Strategic and International Studies

(ミャンマー戦略国際問題研究所)